



発行所
青森県立八戸東高等学校
同窓会松友会
〒031-0001 八戸市類家1-4-47
八戸東高等学校内松友会事務局
電話 0178 (43) 0262

令和6年度 同窓会定時総会



令和六年八月十八日、八戸グランドホテルにおいて、八戸東高等学校同窓会松友会定時総会が開催されました。

今年度はコロナ禍を経て四年ぶりにご来賓をお招きしての開催となりました。東京支部からは谷内玲子支部長が遠方よりご参加くださいました。

総会では、茂木会長の挨拶、来賓代表として矢部校長から祝辞の言葉をいただきました。議事に入り、会計報告、提案議案はすべて満場一致で承認されました。

「松友会」は 通じ合える大家族

同窓会 副会長 油川 育子
(高校31回生)

と認識しています。廊下に掲示された生徒の皆様活躍や生活の様子が親しめる記事には「力を出し切れ満足」「記録を伸ばすため毎日繰り返し追求してきた」「小さな勇気をもつことの大切さ

とを実感しています。最も大切な目に見えない力も育ててくださっている矢部校長先生を始めとする教職員の皆様と愛情深くお育て下さっているご家族の皆様がスクラムを組み豊かな環境を築き上

の光栄は一度も失敗しないことではなく倒れることに起き上がるところだ。成功は99%の失敗に支えられた1%である。失敗は成功へ繋ぐ架け橋です。生徒の皆様の中には、まだ自分では



「八戸フラウエンコー」は高校34回生の前川原祐子さんが代表を務めた。総会では、茂木会長の挨拶、来賓代表として矢部校長から祝辞の言葉をいただきました。議事に入り、会計報告、提案議案はすべて満場一致で承認されました。



り、最後は全員で校歌を歌い、またの再会を約束してお開きとなりました。今回の総会は、コロナ禍前の形式に近い内容で開催することができました。これもひとえに多くの方々のご理解とご協力のおかげだと感謝しております。ご参加くださった方々と貴重なお時間を共有できたことを嬉しく思います。ありがとうございました。



同窓会松友会の皆様には、日頃から本校のため惜しみないご支援・ご協力をいただき心から感謝申し上げます。これまで、総会、東京支部総会等に参加させていただき、それぞれの盛況であり、皆様の母校を愛する深い気持ちに感激し、あらためて同窓会の素晴らしさや有り難さを胸に刻んでおります。

今年度も多くの部活動が活躍しましたが、中でも音楽部が昭和三十年の出場から数えて六十九年ぶりにNHK全国学校音楽コンクール（Nコン）への出場を果たしたことは特筆すべきところで、部員・顧問の日頃の努力の成果が結実し、学校も喜びに沸きました。Nコンに出場することが決定した報告を八戸市長にしたところ、その様子が青森朝日放送のニュースに流れ、また、『デリー東北』にも掲載されました。それをご覧になった、六十九年前に出場された卒業生の方がわざわざ学校にお越しな

ついで最近の出来事であるかのように詳しくお話しされ、今回の出場を我がことのように大変喜んでいらっしゃいました。また、Nコン当日には、松友会東京支部の方々が多数、会場のNHKホールに後輩たちを激励するために足を運んでくださいました。さらに、Nコン出場を目指していましたが、惜しくも出場できなかったが、六十九年前に東京在住の方々が、六十九年前に出場された方、卒業生お二人が『デリー東北』のこの欄に本校音楽部の活躍を賞賛する投書をしてくださいました。

このような反響を校長としてとても有り難く思う。この場を借りて感謝申し上げます。この本は本校図書館に寄贈されており、八戸東高校こそ私を育ててくれたところと常に感謝しております」という一文が添えられています。私は、八戸東高校に来なければ、この本に出会うことはなかったかもしれない。この巡り合わせに感謝しています。異国の地で過酷な恐怖に満ちた日々を過ごしながら、母と妹を守って帰国した大先輩がいることを生徒の皆さんにも知ってもらいために『芙蓉の花』を是非一読してほしいと思っています。

支部だより

支部長 谷内 玲子
(高校22回生)

令和六年五月十九日アルカディア市ヶ谷にて、松友会東京支部「令和六年度総会・懇親会」を開催しました。昨年までは会場を変更しての

に、八戸から矢部広明校長、三浦文恵松友会副会長、東京青森県人会長柳田一弘氏、八戸東京事務所長番沢啓司氏、デリー東北新聞社東京支社松村悠斗氏（高校64回生）の出席を頂き、八戸東高校の学生の近況を伺い、

懐かしい母校へと皆さん想いを馳せておりまして、懇親会では、卒業生の歌手、吉岡リサさんをお迎えし、オリジナルを含め六曲の熱唱に、和気あいあいとした中、あっという間の二時間でした。一年後、笑顔での再会を祈念致します。

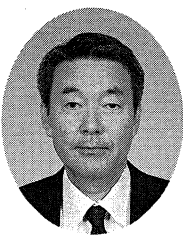
今年度も多くの部活動が活躍しましたが、中でも音楽部が昭和三十年の出場から数えて六十九年ぶりにNHK全国学校音楽コンクール（Nコン）への出場を果たしたことは特筆すべきところで、部員・顧問の日頃の努力の成果が結実し、学校も喜びに沸きました。Nコンに出場することが決定した報告を八戸市長にしたところ、その様子が青森朝日放送のニュースに流れ、また、『デリー東北』にも掲載されました。それをご覧になった、六十九年前に出場された卒業生の方がわざわざ学校にお越しな

ついで最近の出来事であるかのように詳しくお話しされ、今回の出場を我がことのように大変喜んでいらっしゃいました。また、Nコン当日には、松友会東京支部の方々が多数、会場のNHKホールに後輩たちを激励するために足を運んでくださいました。さらに、Nコン出場を目指していましたが、惜しくも出場できなかったが、六十九年前に東京在住の方々が、六十九年前に出場された方、卒業生お二人が『デリー東北』のこの欄に本校音楽部の活躍を賞賛する投書をしてくださいました。

このような反響を校長としてとても有り難く思う。この場を借りて感謝申し上げます。この本は本校図書館に寄贈されており、八戸東高校こそ私を育ててくれたところと常に感謝しております」という一文が添えられています。私は、八戸東高校に来なければ、この本に出会うことはなかったかもしれない。この巡り合わせに感謝しています。異国の地で過酷な恐怖に満ちた日々を過ごしながら、母と妹を守って帰国した大先輩がいることを生徒の皆さんにも知ってもらいために『芙蓉の花』を是非一読してほしいと思っています。

感謝

八戸東高等学校 校長 矢部 広明



に、八戸から矢部広明校長、三浦文恵松友会副会長、東京青森県人会長柳田一弘氏、八戸東京事務所長番沢啓司氏、デリー東北新聞社東京支社松村悠斗氏（高校64回生）の出席を頂き、八戸東高校の学生の近況を伺い、

懐かしい母校へと皆さん想いを馳せておりまして、懇親会では、卒業生の歌手、吉岡リサさんをお迎えし、オリジナルを含め六曲の熱唱に、和気あいあいとした中、あっという間の二時間でした。一年後、笑顔での再会を祈念致します。

今年度も多くの部活動が活躍しましたが、中でも音楽部が昭和三十年の出場から数えて六十九年ぶりにNHK全国学校音楽コンクール（Nコン）への出場を果たしたことは特筆すべきところで、部員・顧問の日頃の努力の成果が結実し、学校も喜びに沸きました。Nコンに出場することが決定した報告を八戸市長にしたところ、その様子が青森朝日放送のニュースに流れ、また、『デリー東北』にも掲載されました。それをご覧になった、六十九年前に出場された卒業生の方がわざわざ学校にお越しな

ついで最近の出来事であるかのように詳しくお話しされ、今回の出場を我がことのように大変喜んでいらっしゃいました。また、Nコン当日には、松友会東京支部の方々が多数、会場のNHKホールに後輩たちを激励するために足を運んでくださいました。さらに、Nコン出場を目指していましたが、惜しくも出場できなかったが、六十九年前に東京在住の方々が、六十九年前に出場された方、卒業生お二人が『デリー東北』のこの欄に本校音楽部の活躍を賞賛する投書をしてくださいました。



全国コンクールに参加して
音楽部部長 福田莉央
私たちは、十月に行われた第91回NHK全国学校音楽コンクール全国コンクールに出場してきました。本校としては昭和三十年以来六十九年ぶりの二回目の出場、青森県勢としても三十四年ぶりの出場となりました。県のコンクールから東北ブロックコンクールに進出するのは二校、さらに東北ブロックから全国コンクールに進出するのも二校のみということで、非常に狭き門での上位大会進出となりました。東北大会では、私たちの出場が一番目だったためとても不安でしたが、日頃の練習の成果を存分に発揮して歌うことができました。そして結果発表、私たちの学校の名前が読み上げられた瞬間、叫び、嬉し泣きをしたことが忘れられません。合唱において、東北というのは日本一の激戦区と呼ばれており、強豪校が揃う中、今年度本校が全国コンクールに出場できたという快挙を成し遂げたことができて、本当に嬉し

いです。
全国コンクールの会場である渋谷のNHKホールは、およそ三千六百人を収容できる国内最大規模のホールであり、迫力のあるサウンドが求められます。出場校のほとんどが、大会規定の上限四十名で出場する中、私たちは二十九名という少人数での出場でした。それでもホールの大きさに負けないよう、声作りや体づくりに取り組みました。腹式呼吸のための筋力トレーニング、歌詞を届け



たの学校の名前が読み上げられた瞬間、叫び、嬉し泣きをしたことが忘れられません。合唱において、東北というのは日本一の激戦区と呼ばれており、強豪校が揃う中、今年度本校が全国コンクールに出場できたという快挙を成し遂げたことができて、本当に嬉し



みんなで一列になって肩を寄せたり、グータッチをしたりして緊張をほぐしました。実際にステージに立ってみると今まで登ってきたステージとは違い、より輝いて見えました。努力して勝ち抜いてきたからこそ見ることができた景色なのだと思います。今まで辛い練習も諦めることなく、高みを目指し続けてきてよかったと思います。緊張することなく、楽しんで歌うことができ、悔いのない演奏ができました。結果は入賞とはならず、正直悔しさもありましたが、それよりも全国というステージに立ち、NHKの全国生中継で、たくさんの方々に私たちの音楽を聞いていただけた喜びの方が大きかったです。また全国のハイレベルの演奏を間近で鑑賞できたこと、スペシャル

ステージで他校の方々と一緒に歌ったことなど、このような経験で得た学びは大きかったです。様々な方々からの温かいご支援のおかげで、貴重な機会を得ることができましたことに深く感謝しています。今後の音楽部の活動にも、引き続き応援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

この度、松友会報へ寄稿させていただくことになりました大南と申しします。

輝く!!同窓生

「笑顔のプレゼント バルーンアート」
大南 累世 (高校40回生)



現在「AOMORI バルーン集団ねじりんご」でバルーンアートのお仕事を十二年になります。装飾やフोटospott、イベントでのバルーン教室などバルーンでわくわくをお届けしています。華やかなお仕事ですが実は体力勝負な事も多く、東高校のバスケットボール部で培った体力、集中力が役立っております。バルーンのお仕事に就くまでには紆余曲折あり

会務報告	
令和6年度会務報告	
令和6年	
3月25日(月)	第一回役員会
4月8日(月)	八戸東高等学校入学式
4月16日(火)	第二回役員会
5月19日(日)	東京支部総会
6月15日(土)	第三回役員会・回生幹事会
8月8日(木)	第四回役員会
8月18日(日)	令和6年度定時総会・懇親会(112名出席)
令和7年	
2月28日(金)	第五回役員会
	同窓会松友会入会式(新入会員220名)
3月1日(土)	八戸東高等学校卒業式

八戸地方の郷土料理 復刊

昭和一七年八戸高等女学校刊行

八戸プラザホテルが創業五十周年記念として郷土の食をテーマとした「南部ふるさと料理」という本を発行、その巻末に、八戸高等女学校(現八戸東高校)が昭和十七年に発行したB六判、四十八ページの小冊子「八戸地方の郷土料理」の復刻版を、付録として掲載している。

この本は「八戸藩の歴史をたずねて」「城下町南部八戸の歴史」など数多くの著作があり、八戸歴史研究会、会長である

三浦忠司氏が編集し、八戸プラザホテル、ふるさとの料理を楽しむ会の、歴史文庫からの郷土料理の再現について、八戸藩のお祝い献立の研究など、歴史を食から読みといている。巻末掲載の八戸高等女学校刊行の「八戸地方の郷土料理」については、三浦氏が当時の旧字体は新字体に、文語表現は口語表現にし、現代にわかりやすく復刻版としている。三浦氏は、この書を復刻版にした経緯として、戦前に継承さ

れた郷土料理を大成したものと大きく意義を持つとしている。紹介されているレシピは、粟ふかし・うきうき・きみだんご・ごり豆・小豆ぱんち・がっくら漬・きんかもち・せなかあて・ひずなます・菊の花の清汁・柳に蹴鞠・いわしの煮なます・ずぶし・ひつつみ・身欠鰯の味噌煮烏賊の鉄砲やき・あかざの豆腐和え・たにしの酢味噌和え・など飯類・粥類・餅類・麺

南部ふるさと料理
「楽しむ会の歩みと八戸藩の料理」
食で歴史を体感!!
八戸藩の料理レシピの再現
「ふるさと料理を楽しむ会」31年間の味わい



価格 一五〇〇円
八戸市内の書店にて販売中

具体的な分量表記がほぼないので、その通りに作ることはなかなか難しいが、材料、調理方法、当時の郷土料理を想像し、思いをはせることが出来る。紹介しているレシピの数は百五十近くと多く、

これだけの郷土料理をまとめるのは大変だったことと思う。当時の郷土料理をレシピにまとめ後世に残そうとした、昭和一七年当時の八戸高等女学校の方々に感謝の気持ちが湧いてくる一冊。

高校卒業後は三菱製紙八戸工場へ入社し二年ほど勤務しておりましたが、大好きな漫画への夢を断ち切れず、講談社へ自分で描いた漫画を持ち込む中「生徒諸君!」の庄司陽子先生のアシスタントを紹介されました。後先も考えず、二つ返事で漫画の世界へ飛び込みました。庄司先生の元で背景や仕上げなどを担当し、

興味のある方は是非Instagram「#ねじりんご」で検索、又はHPをご覧ください。どこかで「ねじりんご」の名前を耳にされた時は同窓生だわ!と思って頂けたら嬉しいです。これからもバルーンで笑顔のプレゼントができるよう頑張ります。

